

図書館の運営について、2月17日、29日に職員の話し合いを持ちました。

<2月17日はいったん、C案からは離れて自由に討議しました>

★開館時間について、画一的でなくてよいか？

開館時間は利用状況、周辺環境を考慮してフレキシブルに検討したい。

大船は開館時間をずらして夜間開館時間を遅くしてはどうか。スライド開館などの工夫が必要

深沢、腰越は朝の（勤務等の関係で朝しかこられない）利用者が多い。

玉縄は夕方になると周辺が暗くなり危険、通勤の人もバス等で直接帰宅し、立ち寄りにくい。

大船図書館の開館時間を午後8時まで、玉縄図書館の開館時間を午後5時までとし、玉縄図書館から夜間開館時間のサポートを行うことができる。

地域館には最低、近くの図書館しか利用できない、子ども、老人、障害者に配慮したサービスが必要である。

大船図書館は予約貸出が多く、滞在型の利用は少ない。蔵書を実用的なものにしぼるなど貸出に特化すべきか。働きざかりの年齢の利用者も多い。

↑耐震工事の時でも、相談件数は多かった。地域館でも蔵書を整え、レファレンスのできる体制は必要だ。窓口だけでなく、一定の蔵書があることも必要。

↑地域館はレファレンス機能より貸出機能が多くを占める。

↑貸出中心なら（施設の危機管理は別として）職務的には嘱託員でできるのではないか

来館者数や時間別利用など今一度客観的な数字をとり、人口統計、年代等検討して総合的に判断したい。

★インターネットコーナー、コピー機が地域館に絶対必要なサービスといえるか？

★現在中央図書館でだけやっている仕事は今後も中央館で行うべきか

16ミリ等の視聴覚資料、障害者サービス、システム、

レファレンス・郷土資料の重点収集、

インターネット更新→地域館でもできるようにすることは可能

★地域館に分散させている仕事を中央図書館に集約すべきか

子ども読書、相互貸借事務、雑誌保存…物の場所と担当が違う場所にいることでかえって非効率になるのではないか。むしろ地域館の職員を充実させるべきだ。

↑施設危機管理はともかく、児童サービス等貸出以外の仕事について地域館の嘱託員があたることはできるのではないか。

↑嘱託員を専門嘱託員として戦力化する研修期間が必要、経験の浅い職員にしても同様である。

- ★歴史的公文書の仕事 ガイドライン作成後は総務課に戻しても良いと考える
↑補助執行でついている嘱託員2名が減になっても残った本来の近代史の仕事ができるか。
- ★中央館でやりきれていない事務作業を地域館嘱託員でかわりにできないか
県内相互貸借の事務処理、予約電話連絡等
- ★地域館の危機管理
図書館自体のリスクと行政センター全体のリスクはいったん分けて考えてみる。
27～30年度、住民票等のコンビニ発行等が進めば、支所が行政センターから撤退することも考えられる。公共施設再編計画との関連もあり。
- ★蔵書構築
地域館の貸出機能をUPして新鮮な書架に！地域館の選書の予算枠を増やす。
長期計画をたてて、効率化。
- ★中央図書館の1階カウンターローテーションから職員をはずしてみてもどうか。
初期の電話対応、窓口対応は嘱託員で、込み入った話やクレームについては事務室職員、2階職員につなぐ。バックからすぐ職員が出られるようにレイアウトを変更し、3階に常駐の電話対応の嘱託員を置く等工夫が必要
→地域館の職員を減らさずに、中央館の職員の減員をした方が効率的にサービスできるのでは。
地域館ではすでに同様の体制で土日月は職員1人で対応している。
- ★保存スペースを考え、新聞雑誌の保管期限を各館の事情に合わせて変えてはどうか。
- ★休館日に地域館は全員指定休みをあてているが、本来は館内整理日として休館日を設けるべき。
- ★ボランティアの協力について（学生、生徒の図書館クラブのような活動も）
- ★非常勤嘱託員の研修について
機会が今は少ない。来年度以降参加できる機会を増やしたい。準備期間が数年は必要であり、急に任せられてもできない。職員へのつなぎ方や連絡等、今でも上手くできていないことがある。
- ★資料費が少ないことで、相互貸借や調査に係る人件費が非常にかかっている。
↑だから、非常勤化で人件費を削ってバーターで資料費を増やす。
↑資料費は戻せるが、育てた人材を切っては取り返しがつかない。

<2月29日に引き続き職員討議をした結果>

★地域館の職員を減らさずに中央館の減員をした方が効率的との案が17日に出たが、
↑果たして、実際にできるのか。今でも足りていないのに。

★合理化できることは何か考えたい

★研修に十分な時間をとる必要がある。

★レファレンスは、先輩の仕事を見ながら、本をさわりながら1年みっちりやっとならぶように立てるようになる。

★非正規化がすすむ逗子に勤務していた職員より

逗子の嘱託員の場合、業務についても自分たちも自主的に外に研修に出たり、神奈川県図書館協会の研修など研修には私費で出席していた。今の嘱託員は研修の機会は職場研修以外にない。機会の拡大を。

★地域館は今の体制でも危機管理上、土日増員の必要があるのではないか。

★業務の継承

業務の継承が行われてこそ図書館の継続性が保たれる

★司書の必要性

★嘱託員の研修予算の確保が必要

★日々のOJT（職場で実務をさせることで行う従業員のトレーニングのこと。企業内で行われるトレーニング手法、企業内教育手法）が必要

★経費削減効果について

今回の諮問は減額が目的だと思うがどうやっても経費はそれほど下がるものではないと思う。

減額規模の具体案があるのか？←公共施設再編との関連ではないが、現在、施設包括管理等の話は出ている。

★地域館と中央館の関係

中央に人をまとめても担当と現場が離れては非効率である。

★インターネット・コピーは機械化のための経費をかけ、人手をとられないようにするか、接続サービスのみ提供して、端末は提供しないなどして省力化すべき。地域館では必須のものではないのでは。

★物理的に人が足りない。書架整理に人手をかけないと書架が荒れる。本末転倒な結果に。

★提案型企画をもっと地域館でも行いたい。

★休館日を各館ずらして不便でないように設定したい。全員が集まる機会が失われるが。

両日の話し合いで、職員間で一定の確認ができたこと

○セキュリティ面…地域館は複合施設内で土日夕は全館で正規職員が一人の配置だがセキュリティの原則である複数対応は現在もできていない

○非正規化…研修時間、研修費用などの確保 通常地域館で現在の内容の業務ができるようになるまでに半年はかかっている。今回の非正規化はそれ以上の業務を任せる案なのでもっと時間がかかる。

現在、正規職員も異動してくると、3ヶ月つききりで研修して、やっと職員一人勤務ができる状態。

○図書館において、図書館サービス・理念の継承が重要だが、新規採用なしで20年が経過している。

将来にわたる図書館サービスの提言、各専門業務（児童サービス、レファレンス等）のリーダーとして定期的に正規職員の司書採用は必要。

○非正規化案は地域館の弱体化は避けられない。

○開館時間、開館日について…各地域の特色を捉えて（分析作業が必要）、変更することも可能だろう。